

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



## SS洗浄物語



- 1年間使い、ボルドー液等農薬で汚れたSS(スピードプレーヤ)を昨年末に洗いました(写真)。
- 最初に、リンゴ酸、食酢等の希釈液をつけてこすってみましたが、洗浄程度は不十分でした。
- 次に、やはり専用の薬剤が必要かと思い、市販品を吹き付けつけたところ、汚れ部分は気体を発生しながら落ちていきました。恐らく、汚れ成分の炭酸カルシウムに濃いめの酸が中和反応し、二酸化炭素を発生しながら分解したのでしょう。
- したがって、ある程度濃い酸が必要なようです。家庭用洗浄剤の中には酸を含むものもあります。ただし、十分な水で流すとともにその後の酸による影響についてよく観察する必要があります。



洗浄前



洗浄後

写真 SS洗浄前後の状況



## 気候温暖化期における凍干害発生



- 最低気温が低く、遭遇時間が長くなるとブドウ樹が枯れたり、発芽が遅れる等凍干害発生危険性が高まります。
- 近年では1980年頃、最低気温 $-10^{\circ}\text{C}$ 以下の低温時に凍干害が頻発しました。
- 気候の温暖化傾向とともに年最低気温も上昇し、県下では過去30年間に目立った凍干害が発生していません(図)。
- ただし、現在でも軟弱生育樹、高標高地園の樹等では凍干害発生恐れがあるのでワラ巻き等の保温対策や乾燥防止のためのかん水を行ないましょう。

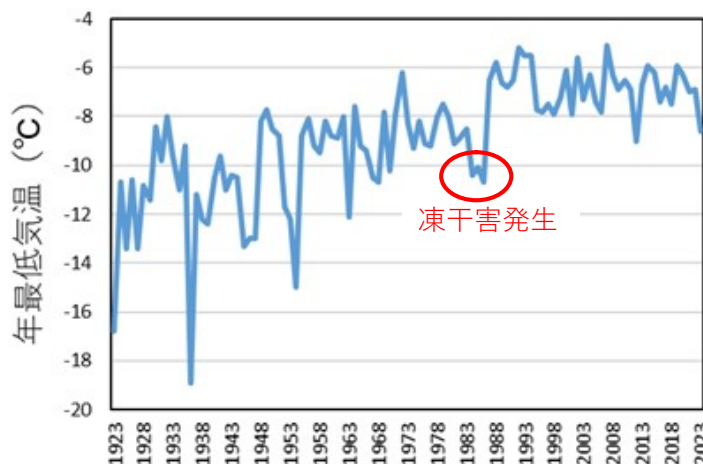


図 過去100年間の年最低気温の変遷(甲府)